

対馬釜山事務所だより

ツシマシ タンセン！ チュカハムニダ！

— 対馬市の誕生！ おめでとうございます。—

3月1日から対馬が市になりましたね。

これから対馬は新たな機能、市として、新しい歴史がはじまります。今までは6町に区別された対馬が、この度1つの市として認識されることは、いままで以上により大きく感じられ、韓国と九州にさらに近くなったような気がするのは私だけでしょうか。

対馬市としての新しい出発、おめでとうございます。

さて、今回お話したい韓国での話題は日本の相撲です。

去る2月14・15日と18日にソウルと釜山で相撲の公演がありました。相撲の韓国公演は韓国独立以来初めてだそうですね。今回の公演は2002年ワールドカップ共同主催の成功を記念して、両国間の交流の推進を目的とし、金大中元大統領と小泉純一郎総理大臣により合意された「日韓共同未来プロジェクト事業」の一環です。

14日と15日のソウル公演をテレビで、18日の釜山公演は現場へ駆けつけました。釜山会場の観覧客は8,000名にのぼり、平日の夕方にも関わらず、多くの人の集まりにびっくりしました。花道から登場する力士を目の当たりにしたら、思わず「すごく大きいね」と口に出してしまいました。テレビで見るとき「力士って大きいなあ」と思っていたのですが、実際に相撲を目の前で見てびっくりしたのは、力士のほとんどが185cmを超える長身だったことです。それなのにさらなるその体型には圧倒されますね。太ももの片方がまるで私の腰みたいな太さですね（これは、どっちが大げさでしょうか？腰？太もも？）。

その「ゴンゴン」と聞こえる力士の足音は2階に座っている私にまで聞こえるほどでした。それなのに柔軟な動き、全く驚きですね。

そして、ちょっぴり心配でもあった、力士の締め込みの姿、そこまで抵抗もなかったですね。

相撲を見る釜山市民の反応は興味津々で、

「ヨッ、ぶつかった。痛そうだね」「よし、押し出したぞ！」「頑張れ！」など試合に夢中でした。

特に韓国の出身選手もいたのでより身近にも感じられました。

最後の弓取り式が終わり、力士の全員が土俵に登場し挨拶をする時観客は、大きな拍手で彼らの迫力あった試合をたたえました。

さて、ここで一つクイズです。

韓国でも日本の相撲と同様のスポーツがあります。この韓国式相撲の名前は何か？（答えは次回の市報に。。。）



金 京一 辛 恩京